令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【野田小学校】

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	基礎・基本の定着を図り、既習事項を活用する力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)算数の時間に「2分間チャレンジ」として四則演算を主とした計算問題を解く時間を設ける。【週2回以上】 (2)国語の時間に「国語チャレンジ」として既習の漢字練習や文作り、語彙集めなどに取り組む。【週2回以上】 (3)既習の漢字を定着できるように、漢字認定テストを実施する。【学期に2回】 (4)自分の思いを表現できるようにするために、スピーチを行う。【学期に2回】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	・国語の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」問題に課題がみられた。条件を満たしていなかったり、正しく引用ができなかったり、自分の考えを書いたりすることができない児童が多かった。引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童が多かったと考えられる。 ・算数の「異分母の分数の大小を判断し、その理由や数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題に課題がみられた。基準量を明確にし、他の数量と比較することができない児童が多いと考えられる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書き表すことに課題がある。 ・数直線上の目盛りの一つ分の大きさや単位分数の個数に着目して、数直線上の目盛りを分数で表すことで、分数の意味や表し方についての理解に課題がある。 ・基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題がある。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)(3)(4)は実施できている。(3)漢字認定テストに向けての漢字練習時間を「国語チャレンジ」の時間を活用した。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	(5)朝行事の基礎基本の時間に、数量感覚を養うため、異学年グループで量りなどを使った学習活動を行う。【学期に2回以上】	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）